

2016年

1月号 No. 59

1月6日発行



原水協通信 (茨城版)

原水爆禁止茨城県協議会 〒310-0912 茨城県水戸市見川5-127-281 水戸平和会館内
TEL/FAX 029-251-9919 e-mail antiatom-i@email.plala.or.jp 会長 加藤 岑生

頒価 ¥220/月
毎月6日発行

核兵器廃絶署名
48,472筆
(12/21現在)

わたしの抱負 平和への思い

新日本婦人の会 菅野紀子

私がまだ子供だった頃、外国の紛争のニュースをテレビで見るたびに、自分は本当に日本人でよかったなと思っていました。日本にいれば、戦争に巻き込まれることはないだろうと思っていましたし、憲法9条を誇らしくも思っていました。それが、9.11のテロで戦争の恐怖を感じ、福島原発事故で原発の恐ろしさを身をもって知り、時の政府が憲法を変えようとしている今、日本は大丈夫なのだろうかと不安になります。

まさか、自分に子どもができてから、こんな心配をしなくてはならないなんて思いもよらぬことでした。日本には、ぜひ世界の先頭に立って、戦争をしない平和的な解決を促すリーダーシップを発揮してもらいたいです。憲法9条を守ってきた、日本だからこそできることだと思うのです。そして、私は自分の子供に、胸を張って日本人でよかったねと伝えたいです。

あけましておめでとうございます。昨年は被爆70年に核兵器をなくすためにご理解とご支持を寄せていただき有難うございました。さて、世界の流れがNPT再検討会議、秋の国連総会で核兵器廃絶が後戻りできないことを示しました。しかし、日本では安倍政権がこの世界の流れに逆行する非核三原則に違反し、アメリカ核軍事政策に加担する「戦争法」を強行制定しました。

「戦争法」の国民的な廃止運動に連帯し、被爆国日本が核兵器廃絶の役割を真に発揮できる政権をつくりましょう。そして、2016年が「核兵器のない平和で公正な世界」を実現するため、決意を表明し新年のご挨拶とします。

元旦

「非核都市宣言」全県達成す！

茨城県利根町議会で12月14日、非核平和都市宣言が決議されました。茨城県は茨城県議会も含めて44自治体の100%非核自治体宣言を達成しました。

茨城県原水協はこれまで茨城県平和委員会と協力して、非核宣言をし平和行政を具体化するよう要請してきました。今年の夏からは茨城県平和擁護国民会議（社民系）、茨城県平和委員会、茨城県平和友好祭実行委員会（自治労系）、原水協が共同して申し込み、実現することができました。

「利根町非核平和宣言に関する決議」内容は『日本人の心の奥底にすり込まれた「ふるさとの原風景」が映す水田が、青く鮮やかな一面の田となり、やがて黄金色となって風にさざめく・・・この素晴らしい郷土の中で、平和で安心して暮らせることは町民の願い・・・「非核三原則」を将来にわたって遵守する・・・核兵器廃絶と世界の恒久平和を・・・』となっています。

核兵器廃絶と平和行政の具体化を要請すると同時に、今後、これを契機に茨城県原爆被爆者協議会（茨被協）を先頭に、県内の核兵器廃絶運動を進める県内平和団体と交流・話し合いを進めたいと思います。



2016年を核兵器廃絶の転換点へ(ニューヨークにて)

新春恒例の署名にご参加ください！

安倍政権の暴走が止まりません。一昨年の秘密保護法、昨年の集団的自衛権に続いて、今年は「共謀法」が狙われております。これは治安維持法の現代版であり、国民を日光の猿のようにしようとするものです。

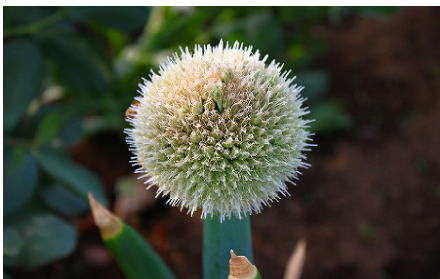
数えたのんで憲法違反のオンパレード。にもかかわらずメディアの一部では、参院選において自民の大部分の勝利を予想するなど、多くの国民の意識を萎えさせようとの企みが透けて見えます。

私たちは絶対に、モチを食ったぐらいで怒りは消えません。「軍国主義を取り戻す」安倍政権を、今度こそKOしようではありませんか。



2016年1月9日(土)
正午から1時まで
水戸駅南口にて

今月の草花



葱(ねぎ)

葱は今が食べ旬。

品種がとて多く、出回っているものだけでも〇〇。一般に関東が根深ネギ(白)、関西が葉ネギ(青)と言われます。白ネギとしては加賀、下仁田、千住、曲りなど。青ネギには福岡産の万能ネギ、やつこネギ、京都産の九条ネギなどがあります。水戸産の赤ネギもお忘れなく。

「九条」のいわれは平安京の東西に通じる大路を指します。憲法九条の窮状を救い、元気を出しましょう。

(柳)

原水協からのお願い

- ① 現在使っている核兵器全面禁止アピールの署名は、引き続き本年も使用します。
- ② 今年の夏は参院選があります。各地域の平和行進実行委員会は早めに取り組んで下さい。
2月13日(土) 13時から第2回理事会と2016年原水爆禁止平和国民大行進茨城県実行委員会総会をみと文化交流プラザ1階101号会議室で開催します。各地域実行委員会の皆様と理事の方は参集ください。
- ③ 昨年北海道～東京(太平洋コース)を歩いた映画プロデューサーの山口逸郎さん(84)とアニメの有原誠治さん制作の「一歩でも二歩でも」の普及を進めております。4000円/枚で購入できます。また、県原水協に3枚購入し貸出を行っています。平和行進実行委員会、小集会などに活用ください。

昨年12月号に掲載予定の記事でしたが、紙面の都合で後半部分を2016年1月号に掲載します。

関東甲信越ブロック原水協学校報告Ⅱ

「戦争法」反対は新しい民主主義の変革、 これは世界的な流れ

核兵器廃絶の歴史的役割

2日目は日本原水協担当常任理事の川田忠明さんからの「核兵器のない世界」への展望と課題―世界大会から国連総会へと題する講演がありました。聴衆は昨日に加えて千葉県内原水協からの参加者を含め約50名でした。

講演は最初に今、国内で起こっている「戦争法」反対の運動が世界の流れの中でどのようにとらえられるかという提起でした。

今、起こっている日本の立憲主義、民主主義、平和主義の運動は多くの広範な市民の自覚的、自主的に立ち上がり、学生と若者の参加が顕著です。そして、世界の中では「アラブの春」(2010～12)、オキュパイ(2011～12)「ひまわり運動」(台湾、2014)などの民主主義を中心とした要求運動が起こり、日常化した非暴力運動が政府を効率的に変革する、これが世界の流れと見ることができます。この背景には21世紀の社会・経済・文化の大きな変化が例えば国民民主意識のグローブな深化、連帯と共有(SNS)があると。

そもそも、戦後政治の起点は、『言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救う』ことを誓い、国連総会の第1号決議は『原子力兵器の各国の軍備から廃絶を』を求め、「原子爆弾の出現が戦後の人類の生存」を左右する問題として世界人類に提起されたものです。そして、日本国憲法9条は、日本の侵略戦争と植民地支配に対する痛切な反省とともに広島と長崎の残虐な体験に根差したものです。大多数の人々が求める民主主義の問題として提起されていると。70年被爆者が先頭に立って「核兵器廃絶」を訴え、人道的議論の広がりを作ってきた歴史的な流れを噛みしめ確信を与えるものでした。

また、「戦争法」の反対の運動が世界史的な民主主義を求める大きな大河であること。日本においてもこの流れが日本政府を変え、被爆国日本が真に世界人類のために核兵器廃絶に貢献できる歴史的役割を果たすことが求められていると感じた講演で非常に内容豊富もので、納得いくものでした。

「12・8不戦の集い」

開催報告(つくば市)

つくばでは毎年12月8日真珠湾攻撃の日になんで「12・8不戦の集い」を開催し、戦争を繰り返さないために戦争体験を語り継ぐ活動が続いています。これまでに特攻隊員だった経験者を聞く等して、さまざまな、今年は少し趣向を変えて、「サラダの会」に朗読劇を上演してもらったことになりました。また、今年がNPTR再検討会議の年でもあったので、同会議や秋に開催された国連総会での、核兵器

廃絶への「押しとどめることのできない世界の流れ」について、県原水協加藤会長にわかりやすく解説していただきました。

サラダの会の朗読劇「ヒロシマ・ナガサキ2015」は、7人の出演者の朗読とフルート・ギター演奏で構成されます。プロジェクトで簡単な背景を映す前で、原爆の被害について語る詩が読み上げられました。つらい体験をわかりやすい言葉で語る詩は、情景を細々と描写してはいませんが、聞く人の想像をかき立て、作者の感情を再体験させるような力がありました。このような朗読劇もまた、原爆の実相とその中で被爆者が感じたことを伝える一つの方法なのだと思えました。参加者のアンケートでも「感動し平和への思いを新たした」など、大変好評でした。(学研労働 小滝)

原爆詩の朗読

ちひろカレンダーを常総の被災地へ届ける

別紙にありますように、茨城県原水協は12月10日、常総市に「愛と平和」のちひろカレンダー300本をお届けでき、たいへん喜んでいただきました。こうした

思いがけないプレゼントは、ささやかではありますが、多くの皆さんの善意から生まれたものです。ご協力いただき、ありがとうございました。

編集後記

茨城県内の全自治体での「非核平和宣言」が12月14日に実現しました。

これはひとえに「原水協」を支える皆様と、平和を愛好する多くの皆様のご支援によるものです。

私たち「原水協」は「協議会」であることの特性を生かし、被爆の実相を知らせるための行動として各地でのパネル展や署名、紙芝居などで知らせていきたいと思えます。

また、自治体への働きかけや被爆者の方々はもとより、福島事故はまだ収束していないし、規制委員会では事故時には放射能を大気に出すと言う。避難「明日は我が身」であることを忘れず、努力していく所存です。(柳)



園児たちとともに



サイエンス・インフォメーション・センターにて

